

平成28年度アドバイザー派遣事業実施レポート

○実施研究団体 西部地区生活・総合的な学習の時間研究会

○実施期日 第1回目 平成28年 6月15日

第2回目 平成28年 6月30日

第3回目 平成28年11月28日

○アドバイザー所属及び氏名

第1回目 文部科学省初等中等教育局視学官 田村 学

第2回目及び3回目 愛知教育大学副学長 野田敦敬

○実施内容

- ・研究テーマ「夢をもち、主体的に学ぶ力を育む生活科・総合的な学習の時間の創造」
- ・研究仮説 「体験活動と豊かな学び合いを繰り返し積み重ねていくことで、進んでかわり合い、学び続けることができれば、豊かな心をもち、地域への愛着が深まる子どもに育つであろう」
- ・研究の重点
 - ①地域における体験活動を単元構想に位置づけ、繰り返し直に学ぶことを通して、地域のよさや地域の思いに触れ、地域への愛着を深める。
 - ②児童が考えたい取り組みたい必要感のある課題を設定し、児童の主体性に基づく課題解決力を高める。
 - ③失敗経験や、対象との考え方のずれに気付くことで、児童がやりたいことを目的意識や相手意識と結びつけて解決していく必要性を実感させる。
 - ④児童同士の深い学び合いにつながる関係づくりや対話力を身に付ける。
 - ⑤自己の課題と活動を関連させて振り返らせることで、学習によって自らの成長を感じさせる。
- ・授業公開及び授業研究会
 - 第1回目 第2学年 生活科「会見大好き！行ってみよう町たんけん
～会見の町をもっとしろう」
 - 第3学年 総合 「会見の宝物をさがせ！かがやくまち発見」
 - 第5学年 総合 「会見の米作りに学ぼう」

 - 第2回目 第1学年 生活科「なつのわくわくであそぼう」
 - 第6学年 総合 「戦争と平和について考えよう」
 - 第4学年 総合 「会見の宝物を探せ」

 - 第3回目 第4学年 総合 「ホテルで会見を元気にしよう」
 - 第1学年 生活科「見つけた秋で遊ぼう」
 - 第5学年 総合 「会見の米作りから食や伝統について考えよう」

○指導を受けたこと

会見小学校が、平成29年12月1日に中国地区並びに鳥取県生活科・総合的な学習の時間研究会を開催することになった。今年度から県内の生活科総合的な学習の時間の研究を推進するため、会見小学校の研究を中心として授業研究会に参加し授業の在り方について学ぶ体制をつくった。授業研究会には県内の小学校から参加者があり、研修を深めることができた。

今年度アドバイザー派遣により、3回の研究会を開催した。学習指導要領の告示前の時期でもあり、学習指導要領改訂に関わられている視学官や大学教授に助言いただき、これから進んでいく教科の方向性や児童につけたい力など新しい情報を得ることもできた。

授業についての助言内容は次のとおりである。

- ・会見小学校の単元構想は、学校単元として地域素材が設定されている。地域のよさを生かした単元構想がなされ、特長的であり、長いスパンで取り組むこともできる。3年生の「柿」「ほたる」6年生の「平和の桜」など地域に根ざした豊かな学びが期待できる素材である。
- ・児童が、本気になって取り組む課題提示や導入の工夫が必要である。児童が自分事として探究し取り組んでいるか。
- ・教師主導になっている向きもあり、子どもたちの目的意識や相手意識を育てていくこと。
- ・発達段階や目的に応じた思考ツールの活用が必要である。
- ・児童の語り合いは、学級経営が基盤である。友だちの話を「聞く」姿勢を育てること。
- ・授業研究会で公開する授業内容について吟味していく必要がある。どんな力をつける授業か、活動場面もよいが、話し合い活動など普通の授業で育成する力を検証していく場面設定も必要である。
- ・振り返りを通して、自分と対話していく。この時間を大切にすること。